

退任の挨拶

国大化学会前会長 米屋 勝利 (昭和 37 年電化卒)

平成 23 年 3 月 11 日に東日本を襲った未曾有の大震災・津波、さらには福島原発事故等によって大変な事態が到来しておりますが、被災地の一日も早い復興と原発事故の汚染拡大が収束に向かうことを心から願っております。さて、国大化学会発足から 4 年目を迎え、平成 23 年 4 月 1 日付で平井太一郎氏が会長に就任されました。これまでの 4 年間で新同窓会の基礎固めの期間であるとするれば、これからは本格的な活動期に入ることになります。ここでは、私の会長在任中の活動内容を述べ、将来の展望に少し触れてみたいと思います。

1. 大学の動向と会長在任中の活動内容

横浜師範学校、横浜高等工業学校、横浜高等商業学校が合併して昭和 24 年に新制大学横浜国立大学が設立されてから創立 60 周年を迎えました。これを契機として、国際交流基金の充実とキャンパス整備事業を進めるための募金活動が大学と同窓会が共同で行われています。現在、多くの関係各位のご支援によって大学正門付近や校内道路が整備されましたし、各建物にも番号が明記されました。今年 3 月からは校内に路線バス（相鉄バスと市営バス）が乗り入れるなど大きく様変わりしております。今後引き続き皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

国大化学会に関しては、発足後の最初の 2 年間は樋口修一郎氏（応化・S35）が初代会長として就任され、同窓会組織・活動ルールを中心とした基盤づくりが進められました。私はその後を引き継いで 2 年間、同窓会が具体的に活動していくための「ネットワークの構築」と「学生支援」を最重要課題と定めて関係者各位とともに努力させていただきました。以下に在任中の重要活動内容と特記すべき事項を紹介しておきます

① 「ネットワークの構築」は、企画 G 松本リーダーを中心に委員各位の献身的な努力によって制度が見直され、従来のクラス幹事を越えた種々のグループを束ねる同窓委員制度を発足させました。昭和時代卒業の会員に対してはクラス幹事の見直しと新委員の発掘によって同窓委員を決



定させていただきました。しかし、平成卒業の会員に関しては、クラス幹事が機能しないことから、研究室等を一つのグループとして同窓委員を選出しました。このようにして発足した同窓委員は同窓会組織の要であります。これから新制度が始動することによって、今後の同窓会本部と各会員間の交流がより一層活発になり、国大化学会がさらに活性化するであろうと期待しております。

- ② 「学生支援」に関しても、企画グループで議論を開始しました。その後、新たに発足した学生支援 WG（会長直属）で内容を整理し、大学教官による具体的な内容の絞込み段階で新会長に引き継いだところです。
- ③ その他、就職支援活動、会費納入促進、会誌・名簿、総会・懇親会、ホームページ、庶務・会計等々報告すべきことは多々ありますが、仔細は各 G 担当に委ねたいと思います。
- ④ 平成 22 年度には、国大化学会にとって 2 つの重要なニュースが発生しました。昨年 11 月 4 日に、国大化学会の会員である中西準子氏（応化・S36）、藤嶋昭氏（電化・S41）が平成 22 年度文化功労者に顕彰されました。大変名誉あることであり心からお祝い申し上げますとともに、本誌の特集記事として取り上げましたのでご覧いただきたいと思います。
- 一方では、国大化学会前身である横浜応化会の会長を務められた佐藤菊正氏（応化・S19）、国大化学会顧問の萩原忠臣氏（電化・S8）、横浜電化材化会会長を務められた石井浩氏（電化・S18）がご他界されました。謹んでお悔や

み申し上げるとともに心からご冥福をお祈りいたします。

2. 同窓会の将来について

周知のとおり、横浜国立大学の同窓会は全学同窓会を横浜国立大学同窓会連合と称し、教育人間科学部の友松会、経済・経営学部の富丘会、工学部同窓会連合から構成されています。さらに、工学部は学科設置ごとに各同窓会が創られたため、一時は11の同窓会が存在していましたが、その後物質工学科の化学系3同窓会が一元化し、さらに、工学系同窓会の一元化によって現在8同窓会から構成されています。このような複雑な組織形態を何とか脱却できないものでしょうか、今年新たに理工学部が設置されましたが、これはどこに帰属すれば良いのかを考えると、まずは少しでも早い時期に工学部同窓会の一元化が実現されるべきだと思います。

しかし、大学、学生支援を重視するために、同窓会が本来もっている会員相互の交流の場であることを忘れてはなりません。このことに関しては、同窓

委員を中継点とするネットワークを有効に生かした会員交流が最も有効であると思います。また、会誌、ホームページ、ホームカミングデー等も重要なツールですが、これらは常に会員のための同窓会という目線で考えていくことが必要でしょう。その結果として、現在問題になっている会費納入率が回復することにも発展することを期待します。

3. おわりに

私は国大化学会発足前の2年間、電化材化会会長を務めさせていただきましたので、合計4年間会長を務めたこととなります。その間は常に同窓会の将来、当面の同窓会の統合と適切な運営が重要課題であり、役員各位や会員の皆様と意見交換をさせていただきました。ここに、改めて深く感謝申し上げるとともに、平井新会長には今後の本格的な国大化学会発展に向けて思う存分のリーダーシップを発揮され、学生・大学の支援と併せて、同窓会員間のすばらしい交流の場になることを心から願って挨拶の締めとさせていただきます。